

平成29年12月1日
(2017年)

吹田市立高野台中学校
校長 森田 直樹

保護者の皆さまへ

平成29年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「平成29年度全国学力・学習状況調査」を実施し、10月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と数学に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生を含め本校生徒には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた、学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析

【国語】《 概要 》

○国語 A(主として「知識」に関する問題)

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語についての知識・理解・技能」については、全ての設問で全国値を上回っていました。また、全ての設問に対して無回答率が全国値より下回っていました。

○国語 B(主として「活用」に関する問題)

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語についての知識・理解・技能」については、全ての設問で全国値を上回っていました。全般的に全国・府と同じ傾向が見られました。



《 各領域の状況・課題 》

話すこと・聞くこと

目的に応じて資料を効果的に活用して話すことはほぼ全ての生徒ができていました。スピーチの内容を考える設問で相手の反応をふまえながら分かりやすく伝えるように工夫して話すことは全国値を上回っているものの、無回答率が5%前後であることは課題です。授業の中でより一層、対話的活動を取り入れていくことが必要です。

読むこと

場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する設問については全国値とほぼ同じでした。また、文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ設問についても全国値をやや上回っていました。「読む目的」を明確にし、新たな課題を見出すような学習を重ねることが必要です。

書くこと

必要な情報を集めるための見通しを持つことができる、また表現の仕方についてとらえ、自分の考えを書くについては全国値を上回っているものの正答率が50%以下でした。日常的に多様な情報に触れ、問題意識を持ち、根拠を明確にして、相手に効果的に伝えるよう工夫して書く力をつけることが必要です。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

古文と現代語訳を対応させて内容を捉える、行書の特徴を理解する設問について全国値を上回っていました。また、適切な敬語を選択する設問についてもできていました。漢字を読むについてはほとんどの生徒ができていました。しかし、適切な語句を選択する設問や多様な語句の理解についての設問については全国値より下回っていました。さまざまな文章形態に触れる必要があります。

【成果と今後の改善点について】

- 評価基準を具体的に設定し、段階を追って理解し、適切に表現する学習を進めます。
- 学習していく過程で「何を理解したのか」「理解したことをどう使うか」を明確にイメージできるように授業の構造化に取り組みます。
- 朝読書や図書室利用を積極的にすすめ、言語体験を広げるようにします。
- 国語の授業で身につけた力を他教科や総合・特別活動などと関連づけ、様々な場面で言語活動に取り組み機会を設けます。

【数学】《 概要 》

○数学A(主として『知識』に関する問題)

「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての領域について、全国値を上回っていました。

○数学B(主として『活用』に関する問題)

「数と式」「関数」「図形」「資料の活用」のすべての領域について、全国値を上回っていました。評価の観点「数学的な技能」についても、全国値を上回っていました。



《 各領域の状況・課題 》

数と式

「計算すること」「文字式で表すこと」「方程式を解くこと」など、多くの設問について全国値を上回っており、学習の成果が表れています。一方、数量の関係を文字式で表す設問については正答率が低く、数を用いて具体的に立式するなどしてよりの確に捉えることが必要です。

関数

グラフなどから必要な値や情報を読み取ったり、関数を式で表したりするなど、多くの設問について全国値を上回っており、学習の成果が表れています。一方、与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して処理・解釈する設問では非正答率、無回答率ともに高く、課題が見られます。図や表で与えられた情報を適切に活用できるようにするために、実生活の場面での問題を解決する活動を取り入れることなどが必要です。

図形

「数学的な見方や考え方」を問う設問では全国値を上回っており、学習の成果が表れています。一方、証明した事柄を用いて新たな性質を見出すことについて、非正答率、無回答率ともに高く、課題が見られます。図形の性質を用いて様々な問題を解決できるように、問題解決の方法に焦点をあてて、「何を、どのように用いればよいのか」を明らかにしながら学習を進めていく必要があります。

資料の活用

資料から適切な情報を読み取ったり、場合の数や確率について求めたり、意味を理解したりすることについて、全国値を大きく上回っており、学習の成果が表れています。一方、資料から必要な情報を選択・処理したり、資料の傾向を的確に捉え、数学的な表現を用いて説明したりする設問については非正答率、無回答率ともに高く、事象を目的に応じて数値化したり、代表値とともにデータの分布を合わせて捉え、説明するなどの活動を取り入れる必要があります。

【成果と今後の改善点について】

数学科においては、これまでの学校・家庭における学習の成果が表れ、計算や数学的な表現、処理の基礎的な力が身につけており、また、事象に対して数学的な見方や考え方を考える力も備わってきている。一方で、図形や関数、資料の活用においてその特徴を的確にとらえ数学的な表現で説明することを求められる中で、苦手意識をもっているとうかがえる。今後、数学における基礎的・基本的な知識・技能をよりいっそう身につけるとともに、日常的な事象を数学と関連づけて考え、その特徴を的確に捉えるようにするために、操作や実験、データの収集や分析、その結果を説明することなど、数学的な活動の機会を積極的に取り入れるようにしていきます。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【自分自身に関すること】

(ア)達成感・挑戦力

「物事を最後までやり遂げて、嬉しかったことがあった」とほとんどの生徒が肯定的に答えていました。「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」と答えた割合は、全国値をやや上回りました。

(イ)自己肯定感

「自分には良いところがある」と肯定的に答えた生徒の割合は、全国値と昨年度に比べ上回りました。また、「人の役に立つ人間になりたいと思う」とほとんどの生徒が肯定的に答え、割合では全国値をやや上回りました。

(ウ)将来の夢

「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒の割合は全国値をやや上回りました。「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就きたい」と1/3強の生徒が肯定的に答え、ほぼ全国値と同じでした。



【家庭生活・学習に関すること】

(ア)規則正しい生活習慣

「朝食をほぼ毎日食べている」「毎日、ほぼ同じくらいの時間に起きられる」とほとんどの生徒が肯定的に答え、全国値とほぼ同じ割合でした。

(イ)テレビ・ゲーム・スマホ(携帯)について

「1日当たり3時間以上、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりする」と肯定的に答えた生徒の割合は、全国値を下回っているが、「ゲームを3時間以上している」については全国値を上回っていました。また、「携帯(スマホ)を3時間以上している」については、全国値をやや上回り、「携帯、スマホの使い方について、家の人との約束を守っている」については、全国値を下回りました。

(ウ)学校行事との関わり、及び、家での過ごし方について

「家の人と学校での出来事について話しをする」と肯定的に答えた生徒の割合は、全国値とほぼ同じだった一方、「家の人と将来のことについて話すことがある」については、全国値を下回りました。また、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)」については、全国値とほぼ同じで、「週に1~3回新聞を読んでいる」については全国値を上回りました。

(エ)家庭学習習慣

「土・日など学校が休みの日に3時間以上家庭学習をしている」と答えた生徒の割合は、全国値とほぼ同じで、「家で学校の予習・復習をしている」については、全国値を下回っていました。また読書に関して、「読書が好き」や「普段(月~金)1日1時間以上読書をする」については、全国値を下回りましたが、「図書室や図書館に週1回以上行く」については、全国値とほぼ同じでした。

【学校生活・学習に関すること】

(ア)規範意識

「学校の規則を守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけない事と思う」とほとんどの生徒が答えていました。



(イ)授業について

「学校で好きな授業がある」と8割の生徒が答え、全国値とほぼ同じでした。他に、「授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていた」と肯定的に答えた生徒の割合は、全国値をやや上回っていました。また、「授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちの立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う」「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う」については、全国値とほぼ同じでした。

(ウ)学級活動及び総合的な学習について

「学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている」と肯定的に答えた生徒の割合は昨年度値、全国値を下回りました。また、『『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいた』については全国値を下回りましたが、昨年度値を上回りました。

(エ)道徳教育について

「道徳の時間に、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思う」と肯定的に答えた生徒の割合は全国値、昨年度値をやや上回りました。

3. 今後の取り組み

1. 教科に関する調査結果の分析について

本調査の傾向・課題を踏まえ、学力向上のために、国語及び数学で示しました、【成果と今後の改善点について】に全ての教科で力を入れ、教員の指導力の向上、研究、実践等を進めてまいります。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向について

【自分自身に関すること】

「自分には、よいところがある」についての肯定的回答率は年々向上しています。今後も様々な学校生活の場面を通じ、自尊感情を育み、自己肯定感を高めてまいります。また、世の中のグローバル化に対応できる人材を育成するため、キャリア教育に系統的に取組み、将来に対する目的意識や展望を育む機会を増やしてまいります。各ご家庭におかれましても、引き続きお子様の将来について、話し合う機会を作っていただきますようお願いいたします。

【家庭生活・学習に関すること】

「朝食をほぼ毎日食べている」「毎日、同じくらいの時間に起きている」とほとんどの生徒が答えていた一方、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と答えた生徒は約75%でした。基礎的な生活習慣は概ね身につけていると言えますが、睡眠の大切さを理解し、自己の睡眠習慣を改善し、質の良い睡眠を取るようにしましょう。また、テレビ・ゲーム・携帯(スマホ)による基本的な生活習慣の乱れは少ないと思えますが、ご家庭でも引き続き使用時間の制限などの約束事を守るようご指導下さい。

「学校の授業の予習・復習」について、平成25年度からは向上しているものの、全国値を下回っており、自学自習について課題があります。今後、「学びに向かう力」を育み、予測が困難な時代に対応できる生徒の育成に努めます。

【学校生活・学習に関すること】

本校がこの数年間取り組んできた、班での話し合い活動や教え合い活動が定着し、多くの生徒たちも肯定的回答をしています。今後も生徒たちが多様な考え方に触れ、自らの考えを深めていけるよう授業改善に努め、質の高い「主体的・対話的で深い学び」となるよう研究してまいります。また、めあての提示、自分で考える時間や話し合う活動の確保、振り返りの実施等、授業の流れについて高中スタンダードの構築に向けて取り組んでまいります。

今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

